

浦安市において若年性認知症を ともに考える研修等事業

社会福祉法人 東京栄和会うらやす和楽苑

〒279-0001 千葉県浦安市当代島 2-14-2

助成事業の概要

活動拠点である千葉県浦安市は、千葉県内初となる認知症施策に関する条例「浦安市認知症とともに生きる基本条例」を令和 4 年 7 月 1 日に施行したが、各関係者や一般市民に若年性認知症に関する知識や対応の現状などの情報提供は充分に行われていない。当法人が他地域において若年性認知症について先駆的に取り組んできた実績を発揮し、令和 7 年度に、広く市民にも参加していただけるよう若年性認知症シンポジウムを 7 月と 3 月の 2 回開催（浦安市共催、浦安市社会福祉協議会・浦安市介護事業者協議会後援）、第 1 回は若年性認知症をテーマとして扱った映画「オレンジ・ランプ」の上映と映画製作に関わられたワンダーラボラトリー代表取締役 / プロデューサーの山国秀幸氏による「映画作りを通じて、僕が学んだこと～認知症にやさしいまちづくりとは～」と題した講演を行った。また第 2 回の基調講演 1. は浦安市福祉部長による「浦安市認知症施策推進基本計画ができるまで」と題した講演、基調講演 2. は千葉県若年性認知症支援コーディネーターの藤田睦美氏による「若年性認知症の理解と制度」と題した講演を行った。講演後には、認知症の世界を疑似体験するために認知症 VR 体験会を実施し、2 回のシンポジウムのアンケート結果とともに、市民向け情報誌に掲載することで情報提供の最適化を図った。

事業の成果

計画当初から、浦安市福祉部高齢者包括支援課との協議を重ね、浦安市との共催及び浦安市社会福祉協議会並びに浦安市介護事業者協議会の後援を得る中、若年性認知症の対応について、いかに市民に知っていただき、ともに考えていくことができるかを継続検討することができた。またこの活動は、浦安市認知症総合施策検討委員会や浦安市地域支え合い会議等多くの理解も得られ、浦安市長も 2 回のシンポジウムにご参加くださるなど、行政と一体となった形で継続発展することができている。第 1 回目のシンポジウムにおいては、若年性認知症の当事者をテーマにした映画「オレンジ・ランプ」の上映と、映画製作に関わられた株式会社ワンダーラボラトリー代表取締役 / プロデューサー、本作の原作者でもある山国秀幸氏による「映画製作を通じて、僕が学んだ認知症のこと～認知症にやさしいまちづくりとは～」と題した講演会を実施した。やはり映画上映と作品に関する関心度は高く、また原作者である山国秀幸氏が浦安市民であることも相まって、当日は 300 名近くの参加を得ることができた。第 2 回目のシンポジウムにおいては、基調講演 1. として、浦安市が「浦安市認知症施策推進基本計画」を策定したことから、基本計画策定までのあゆみと計画の概要について浦安市福祉部長にて講演した他、基調講演 2. では、千葉県若年性認知症支援コーディネーターの藤田睦美氏による「若年性認知症の理解と制度」と題した講演を行った。講演終了後には、認知症の当事者の感じる不安や葛藤

を体験していただくため、認知症 VR 体験を実施、関係者含め来場者約 70 名のうちの半数近くが VR 体験を通じて認知症の世界観を身をもって体験することができた。

各回のシンポジウムの開催を通じて、寄せられたアンケートからは「認知症だからといって何もできなくなるのではなく、認知症になっても一人ひとりが個人としてできること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で希望を持って自分らしく暮らし続けていくことができるという」新しい認知症観の理解が深まっただけでなく、VR の体験を通じて、もしも自分が認知症になったらどうしてほしいか、といった認知症を自分ごととして考えるきっかけづくりになった。なお、2 回のシンポジウムの様子や寄せられたアンケート結果については、できるだけ多くの市民への理解を深めるため、地域のコミュニティ新聞に一面掲載することで、全世帯の約 70%に情報を届けることができた。

今回の活動を通じて、若年性認知症に対する正しい知識と理解を一層深めることができただけでなく、浦安市が進めている「認知症とともに生きることができる地域社会の実現」に向けた取組みとも連動し、シンポジウム効果の最大化を図ることができた。地域で活動する社会福祉法人がこのような地域貢献活動を展開することは、認知症の課題にとどまることなく、市内の様々な福祉活動の更なる活性化に貢献することができたと自負している。

成果の広報、公表

浦安市には、現在 87,809 世帯が生活しているが、その市民に広く若年性認知症について周知・啓発することが、事業タイトルにある「若年性認知症とともに考える」ことにつながると確信している。そこで令和 7 年度は、浦安市全域に毎週約 6 万

部を配布している「浦安新聞」に 1 年を通じて事業活動の取材を依頼、記事で情報を発信し続けることができ、シンポジウムに参加していない市民に対しても若年性認知症に対する知識や課題の相互理解へとつなげることができた。1 年間の活動をまとめた報告についても、一面での記事報告を行なった他、今回の活動を通じて、浦安新聞と浦安市福祉部高齢者包括支援課が連携し、浦安市が策定した認知症施策推進基本計画に掲げる基本理念 1「認知症とともに自分らしく暮らせること」の 1.「認知症とともに生きることについての理解の推進」に掲げている、映画「オレンジ・ランプ」DVDの無料貸し出しについての広報も行うことができ、今回の活動を通じて官民が一体となり、若年性認知症や認知症になっても安心して暮らし続けられるまちづくりを目指す浦安市の取り組みの一層の促進につながった。

今後の展開

令和 8 年度中に 2 回、「浦安市において若年性認知症とともに考えるシンポジウムⅤ及びⅥ」を開催するほか、認知症の世界観を体感するための「認知症 VR 体験講座」を開催予定。開催にあたっては、当法人うらやす和楽苑が主催し、浦安市が共催する他、浦安市内の介護事業者で構成される「浦安市介護事業者協議会」、「浦安市社会福祉協議会」の後援を得ることで、浦安市内各関係者が一体となって開催する形を目指す。シンポジウムⅤについては、順天堂東京江東高齢者医療センターメンタルクリニック科長、副院長でもある精神科医、柴田展人先生を講師に招き、「『(仮称) 若年性認知症の理解と最新医療』と題した講演を予定、シンポジウムⅥについては、「『(仮称) 認知症世界の歩き方』から実践スキルを学ぶ」をテーマに、issue+design の村島久美子氏を講師に招き、認知症のある人が経験する出来事を、誰も

がわかりやすく身近に感じていただき、認知症をより「自分ごと」として考える機会とすることを旨とする。「認知症 VR 体験講座」については、VR 体験を通じて、「認知症を学ぶ」のではなく「認知症を体験」、一つひとつの体験ごとに参加者同士で話し合い、認知症がある方を取り巻く環境の課題についての理解を深めることで、認知症に優しいまちづくりの推進を目指していきたい。なお 3 月末には、シンポジウムの実施結果について、浦安新聞への掲載配付の手法で実施することにより、市民の 7 割の世帯に対し若年性認知症について知っていただく機会を提供する。